

## 自己点検表

### 1. 教員個別表

フリガナ アイザワ エミコ 氏 名 相澤 恵美子	職 名 准教授 人間学部 健康栄養学科	取 得 学 位 博士(医学) (大学名) 東北大学 (取得年月) 2012年 3月
-----------------------------	------------------------	--

### 2. 教育・研究業績表

#### (1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
教育内容・方法の工夫 1. 食育活動としての学生への実践的指導:親子クッキング開催による幼児への食育教育の実際	2018-2019	幼稚園親子クッキング教室の開催において、親子約 40 名の参加者の調理指導を担当し、食育教育の実践を行った。また、学生の食育活動の教育指導も併せて実施。
2. 地域子育て支援講座での栄養教育	2018.12	子育て支援講座(対象 2~3 歳児)において、「親子クッキング:クリスマスケーキを作ろう!!」をテーマにブッシュドノエル作成を企画。学生も参加し親子クッキングのサポートを行うことで、地域における管理栄養士の関わりについて、実践的な体験型教育を展開した。
3. 地域高齢者への食教育講座の開催	2018.8	健康寿命を延ばす食事というテーマで 2 日間にわたり高齢者への調理実習指導及び講義を行った。学生への生きた健康教育の実践教育、企画・運営についての学びの場となった。
4. 管理栄養士としての国際感覚を身に付けるための取り組み	2017.5	ベトナム留学生との料理交流会企画。管理栄養学科学生とベトナム留学生による代表的な料理(日本 vs ベトナム)をつくり料理による国際交流の実施
	2019.8	カナダへの語学研修を利用し、現地の食文化、食材料などの当分や塩分調査を行い、海外との味覚について調査を行った。1ヶ月の短期留学における出発前後で食事摂取頻度調査(FFQg)を行い、どの程度の摂取頻度の変化があるのか把握し考察した。
5. 栄養アセスメントの充実	2018-2019	内臓脂肪面積測定機器、エコーを用いて脂肪肝やその他の臓器及び頸動脈のチェック、PWV (Pulse Wave Velocity)を用いた動脈硬化測定、骨密

6. 腸内環境測定及び腸内細菌分析を取り入れた食品摂取による影響の分析教育の導入	2018	度計なども含めてアセスメントメニューを充実させ、FFQgによる食事摂取分析とあわせて栄養アセスメントを行った。
7. エクオール産生菌測定による女性の栄養摂取について検討	2020	バイオマーカー、インドール、および腸内細菌測定によって、オリゴ糖やサプリメント摂取による腸内細菌の変化及び腸内環境への影響について分析を行い理解を深めた。
8. FODMAP 食の導入の検討	2021	エクオール産生期の有無について測定することで、栄養ケアが変わってくることを理解し、栄養指導のスキル向上につながる学びを深めた
9. 栄養指導における DX(デジタルトランスフォーメーション)の導入	2022	高FODMAP食とは発酵性で、かつ吸収されにくい短鎖炭水化物群の食品で過敏性腸症候群の患者に有効とされているが、これらの食事療法の理解を深めた。
10. ストレスマーカーCortisol 測定によるメンタルヘルスと栄養に関する探究	2023	スマートフォンを利用した食事摂取状況の把握、従来の食事摂取頻度調査法との比較において、栄養指導のツールとしての妥当性に関する検討
11. sIgA 測定を利用した免疫状態の理解と栄養との関連分析の推進	2023	Cortisol 測定器を導入し、メンタルヘルスに関するマーカーを利用した理解の向上と栄養学的なアプローチについての探求の実施 免疫に関する評価方法の実施と栄養摂取との関連分析の方法を具体化

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
著書 うつと腸内細菌	共著	2017/8	腸内フローラとメンタルヘルス /医歯薬出版	功刀浩、 相澤恵美子 辻浩和 朝原崇 高橋琢也 寺石俊哉 吉田寿美子		P. 29-42

<p>Eicosapentaenoic Acid Intake Associated with Reduced Risk of Posttraumatic Stress Disorder After the Great East Japan Earthquake and Tsunami</p>	<p>共著</p>	<p>2019/5</p>	<p>IntecOpen Psychological Trauma</p>	<p>太田深秀 古賀賀恵 服部功太郎</p> <p><u>Emiko Aizawa,</u> Miho Ota, Ikki Ishida, Norie Koga, Kotaro Hattori, Shinji Sato, Takashi Asada and Hiroshi Kunugi.</p>		<p>P. 47-52</p>
<p>論文 <i>Bifidobacterium</i> and <i>Lactobacillus</i> Counts in the Gut Microbiota of Patients with Bipolar Disorder and Healthy Controls.</p>	<p>共著</p>	<p>2019/1</p>	<p>Frontiers in psychiatry 9:730</p>	<p><u>Aizawa E,</u> Tsuji H, Asahara T, Takahashi T, Teraishi T, Yoshida S, Koga N, Hattori K, Ota M, Kunugi H.</p>		<p>P. 1-8</p>
<p>Altered polyunsaturated fatty acid levels in relation to proinflammatory cytokines, FADS genotype and dietary habits in bipolar disorder</p>	<p>共著</p>	<p>2019/6</p>	<p>Translational Psychiatry 9</p>	<p>Norie Koga, Jun Ogura, Fuyuko Yoshida , Kotaro Hattori,</p>		<p>P. 208-216</p>

<p>Gut permeability and its clinical relevance in schizophrenia.</p>	<p>共著</p>	<p>2022</p>	<p>Neuropsychopharmacol Rep 42</p>	<p>Hiroaki Hori, <u>Emiko Aizawa</u>, Ikki Ishida, Hiroshi Kunugi</p>		<p>P.70-76</p>
<p>Altered cognitive function of prefrontal cortex during error feedback in patients with irritable bowel syndrome, based on FMRI and dynamic causal modeling</p>	<p>共著</p>	<p>2012/11</p>	<p>Gastroenterology 143</p>	<p><u>Aizawa E</u>, Sato Y, Kochiyama T, Saito N, Izumiya M, Morishita J, Kanazawa M, Shima K, Mushiake H, Hongo M, Fukudo S.</p>		<p>P. 1188-1198</p>
<p>大型自然災害後のうつ病の諸相</p>	<p>共著</p>	<p>2015/3</p>	<p>Depression Frontier 13</p>	<p>相澤恵美子, 石田一希, 太田深秀, 佐藤晋爾, 朝田 隆, 功刀 浩</p>		<p>P. 81-87</p>

Possible association of Bifidobacterium and Lactobacillus in the gut microbiota of patients with major depressive disorder	共著	2016/9	Journal of affective disorder 15; 202	Aizawa E, Tsuji H, Asahara T, Takahashi T, Teraishi T, Yoshida S, Koga N, Hattori K, Ota M, Kunugi H.		P. 254-257
--	----	--------	--	--	--	------------

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
学術研究発表						
発表テーマ			発表年月(西暦)	発表場所		
国際学会 Major depressive disorder and initial insulin hyposecretion in oral glucose tolerance test.			2016/7/3~5	30th The international college of neuropsychopharmacology (CINP) Soul, Korea. COEX		
Bifidobacterium and Lactobacillus Counts in the Gut Microbiota of Patients with Bipolar Disorder and Healthy Controls.			2019/6	World Federation of the Societies of Biological Psychiatry 2019,		
国内学会・シンポジスト Body からのシグナルは直感的意思決定にどう影響するか？過敏性腸症候群が示す神経基盤			2015/10	第 22 回日本行動医学会学術総会 シンポジスト		
腸内フローラと鬱病			2018/11	第 14 回食品免疫学会「腸内細菌と脳・神経系との関わり」		
腸内環境と気分障害			2019/7	第 16 回日本うつ病学会総会 「栄養と運動と気分障害」		

うつ病と腸内細菌—腸-脳相関	2021/7	第 18 回日本うつ病学会総会 「腸-脳相関」
----------------	--------	-------------------------

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
心身医学会 日本免疫学会 日本免疫消化器学会 腸内細菌学会 臨床栄養協会 うつ病学会 日本栄養士会 日本栄養食糧学会 日本栄養改善学会		平成 20 年 4 月 平成 29 年 5 月 平成 30 年 4 月 平成 30 年 4 月 令和 2 年 4 月 令和 3 年 4 月 令和 3 年 4 月 令和 2 年 4 月 令和 5 年 4 月

III 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
日本学術振興会科学研究費	2013-2016	基盤研究 (C)	過敏性腸症候群の意思決定とその神経基盤 (研究代表者)	5,070,000
日本学術振興会科学研究費	2017-2019	基盤研究 (C)	大鬱病における腸内細菌叢と炎症免疫及び腸管壁浸漏症候群との関係解明 (研究代表者)	4,810,000
日本学術振興会科学研究費	2021-2023	基盤研究 (C)	幼児のストレスに及ぼす自然保育の生理学的効果に関する研究 (研究分担者)	4,160,000
日本学術振興会科学研究費	2022-2024	基盤研究 (C)	腸内細菌叢 Dysbiosis 改善のための妊娠適齢期女性への栄養マネジメントの構築 (研究代表者)	4,290,000

### 3. 特記事項

--